

岐阜県経済の現状



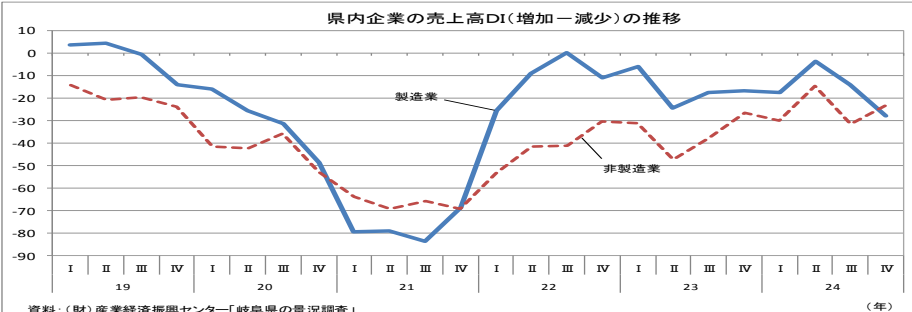
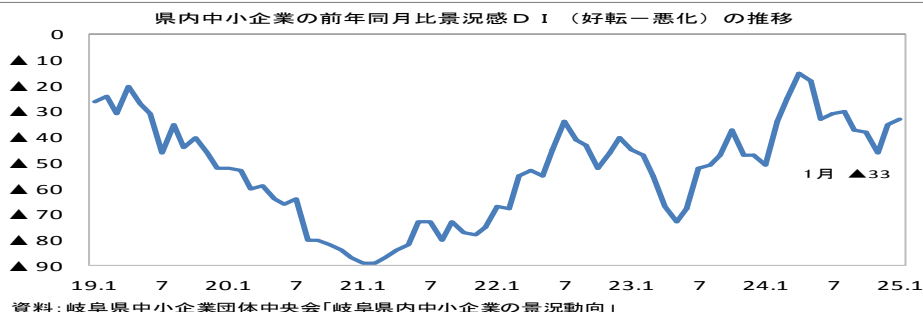
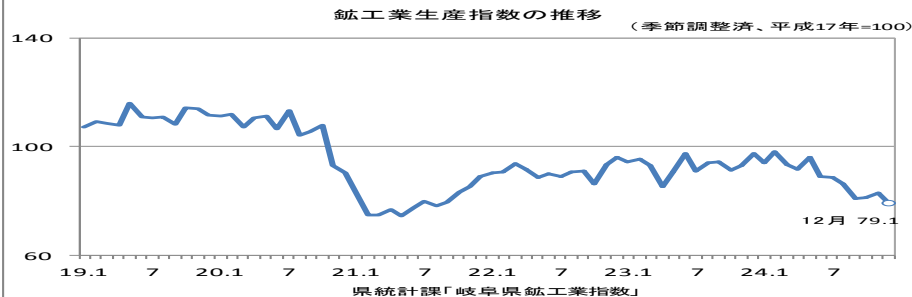
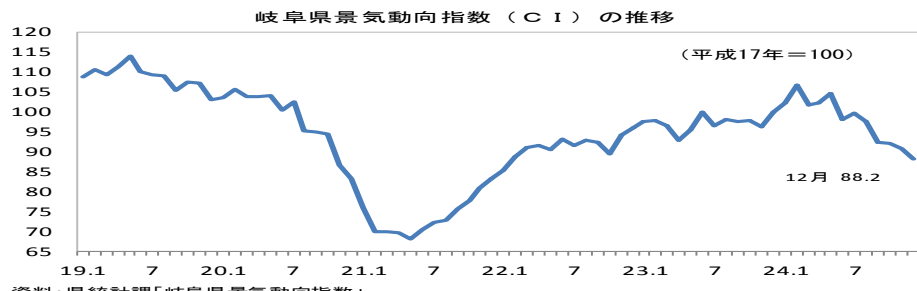
平成25年2月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは2月28日～3月1日を中心に実施し、3月5日に作成。

景気動向・製造業

○12月の景気動向指数(CI、一致指数)は88.2と前月から2.5ポイント下降。県内中小企業の景況感は、2ポイントの改善。

○12月の鉱工業生産指数は、4.5%減の79.1となった。製造業の売上は低下しているものの、非製造業は上昇に転じた。



現場の動き

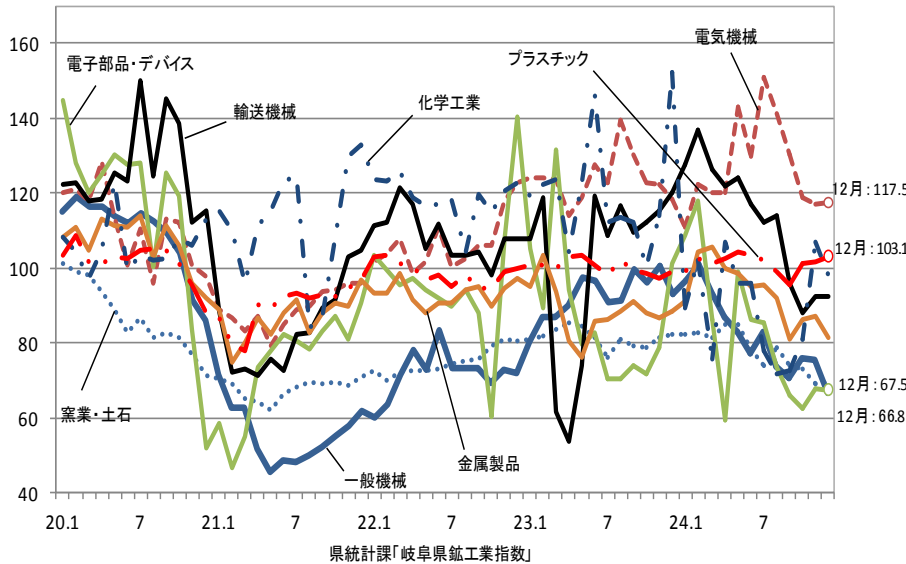
- ◆円安により収益は上がっているが、売上が上がっている訳ではない。売れる車種(小型のハイブリット車)が固定されており、他の車種は依然として厳しい。
- ◆円安に伴い、原材料の値上げ要請が徐々に始めている。
- ◆工場生産能力の80%になり、前年並みに戻った。残業はないが、フル稼働の状態である。
- ◆アメリカの自動車市場が好調で、それに伴い当社の現地工場も好調である。
- ◆出荷量は対前月では約9%増加した。中国情勢の影響が少なくなり、出荷増に繋がっている。(以上、自動車用部品)
- ◆売上はピーク時の50%程度で、前年同月比はここ数カ月平均で110%くらい。夏以降は自動車関連を中心に増加を見込む。(電気機械)
- ◆今後は少し明るい兆し。中国現地法人では領土問題前の半分に減っていた売上が100%に回復した。(非鉄金属)
- ◆出荷量は対前月で約5%増加した。トヨタ全体で生産量が伸びており、出荷量も上向きである。(金属製品)
- ◆1月までの売上は前年並みとした予算を4億円上回っている。2月も計画を上回る見通しであり、引き続き業績を伸ばしていきたい。
- ◆例年より厳しい寒さが続き、冬麺容器の販売が前年同月比33%増加するなど他の製品も好調に推移している。(以上、プラスチック)
- ◆荷量は前年並み。国際貨物の輸入は、アパレル中心に若干落ち込んでいるが、太陽光発電関係でカバーしている。(運輸業)

製造業-2(業種別)

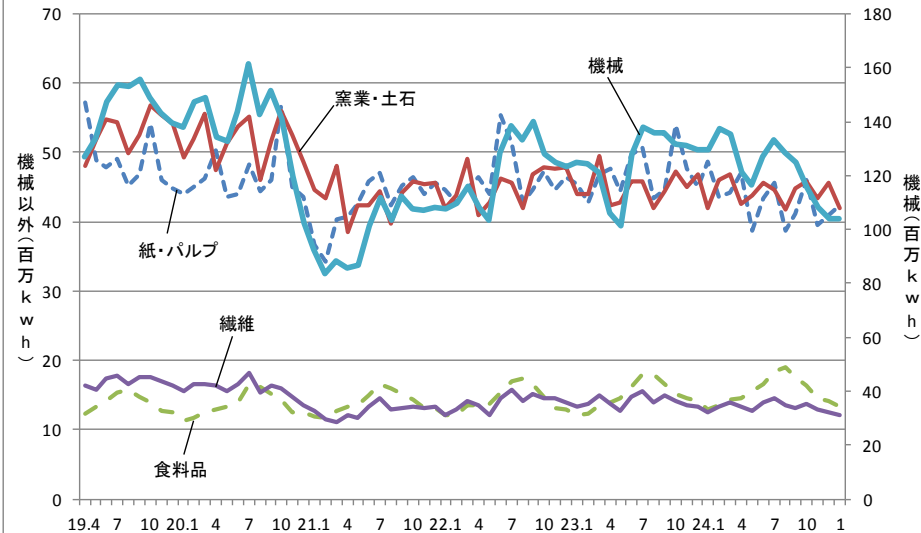
○12月の生産指数は、プラスチック製品等が上昇したものの、一般機械、化学、金属製品等が低下した。

○1月の工場向け販売電力量は、食料品が3年以上ほぼ一貫して前年を上回っているものの、構成比の大きな機械が8カ月連続で前年を下回っている。

主な産業の生産指数 (季節調整済、平成17年=100)



業種別 産業用大口電力(契約500kw以上)の販売電力量



資料: 中部電力㈱提供資料より作成

現場の動き

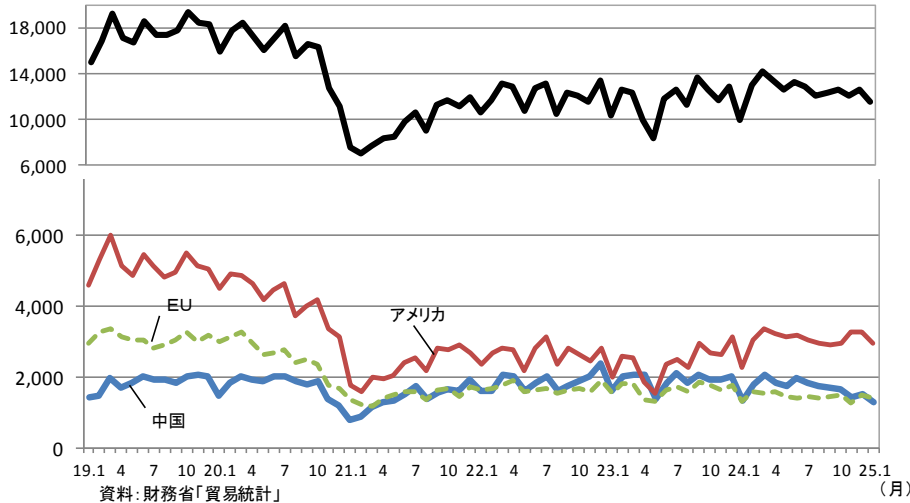
- ◆春物の商談は3月から本格化するが、現在の感触はあまり芳しくない。東京インターナショナルギフトショーや、国内百貨店、バイヤー等との商談も感触が良くない。(アパレル)
- ◆年明けからの景況感は昨年より悪い。冬は陶磁器を売り込むホットシーズンであるが伸びていない。(陶磁器)
- ◆対前年比は、ほぼ同じくらい。原材料価格が値上げされ、価格に反映できないため、節約するしかない。(紙関係)
- ◆景気は相変わらず停滞感があるが、円安になっているので、米国やヨーロッパからの注文が増えている。今年になって、米国は2倍の出荷になっている。(刃物)
- ◆景気は悪く、売上は10年前の半分程度。付加価値の高い商品を展開し、量が出なくても利益の取れる商売をやっている。(食品)
- ◆2月は4%増と好調。住宅メーカーや家具販売店、インテリアショップ等への販売が好調。地域としては関東よりも関西方面の伸びが良かった。(木工)

輸出

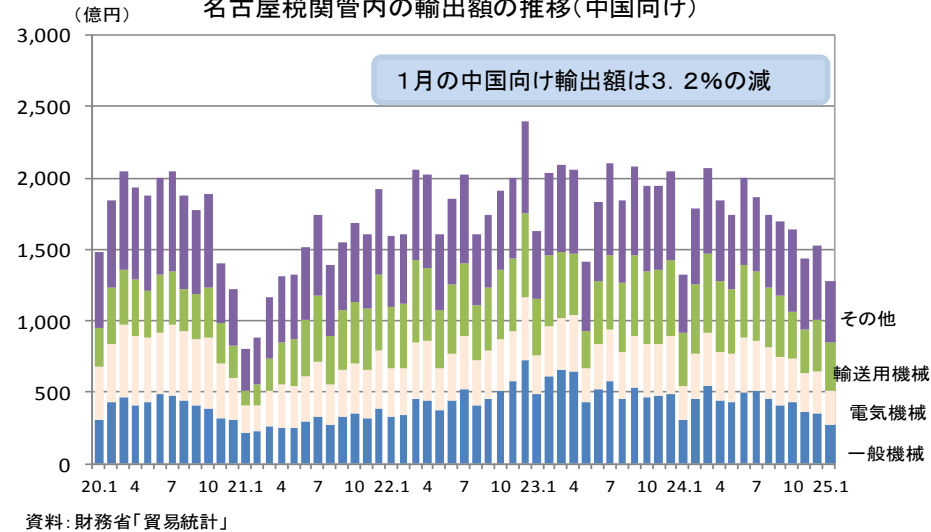
○1月の輸出額(名古屋税関管内)は、11,602億円の前年同月比16.2%増。

○中国向け輸出は主力の産業が全て減少したことで前年同月比3.2%減となった。逆に、アメリカ向け輸出は主力産業が全て増加したことで28.7%増となり、直近17カ月中16カ月で前年を上回っている。

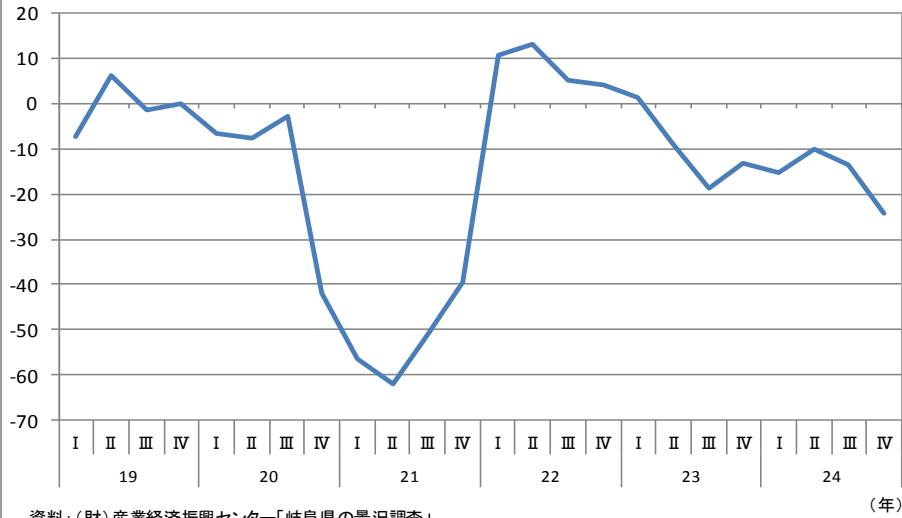
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(全産業)



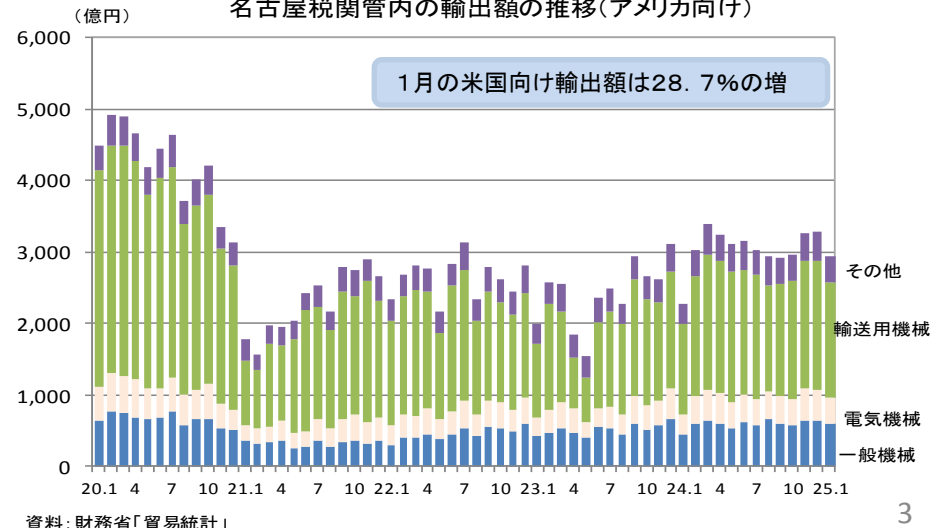
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(中国向け)



県内企業の輸出向け売上高DI(増加-減少)の推移



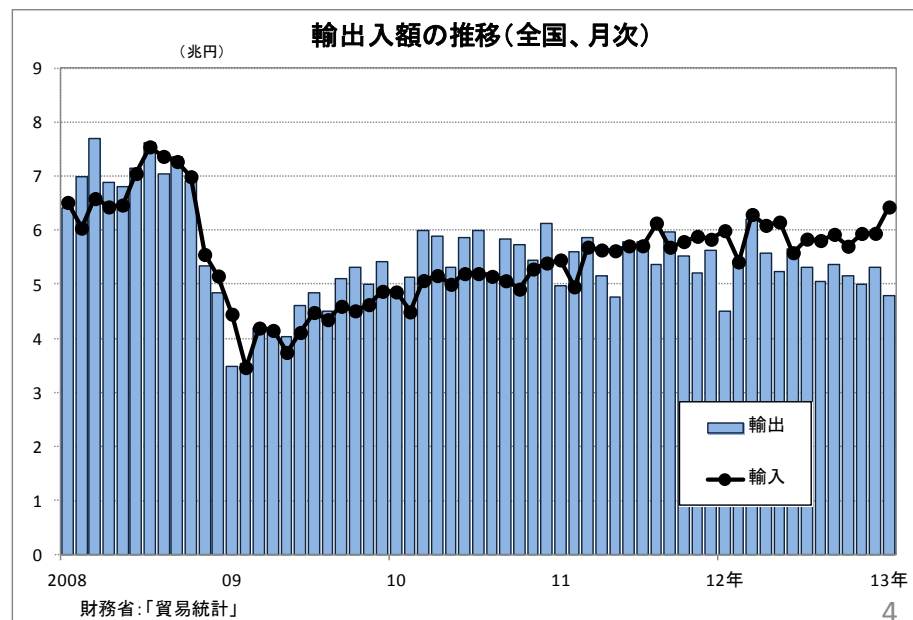
(億円) 名古屋税関管内の輸出額の推移(アメリカ向け)



海外情勢の影響(直近の円安の動きについて)

- ◆円安に伴う影響について、原油高はダイレクトに効くが、輸出、生産への影響はもう少し経過してから効果が出てくるのではないかと。(金融機関)
- ◆原料の3割程度を輸入している。円安により輸入原料のコストが増加しており、販売価格への転嫁は難しく利益を圧迫している。(食料品製造)
- ◆原油価格上昇の影響が出始めて一カ月が経過し、その影響が顕著に現れている。(輸送用機械)
- ◆アルミニウム等の原材料価格は円安により一段と上昇している。電気、ガス、燃料とエネルギー価格の上昇も心配であり、これらの業績への影響は大きい。(非鉄金属)
- ◆鉄の価格は落ち着いているが、円安傾向を受けて3月から数%上昇する見込み。銅は既に上昇している。(はん用機械)
- ◆LPガス燃料費について、対前月で3%値上がりした。3月も値上がりする予定。原材料は昨年末より20%増である。(はん用機械)
- ◆原材料価格が高騰しており、価格転嫁のタイミングを同業他社の動向を探りながら折衝している。(プラスチック)
- ◆樹脂製品の原材料価格やボイラーに使用する重油の価格が上昇しているが販売価格に転嫁できないため利幅は少なくなっている。(プラスチック)

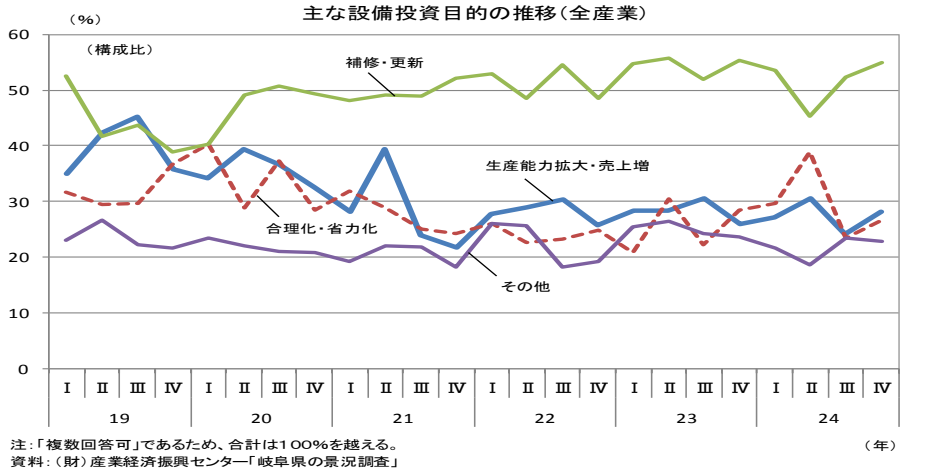
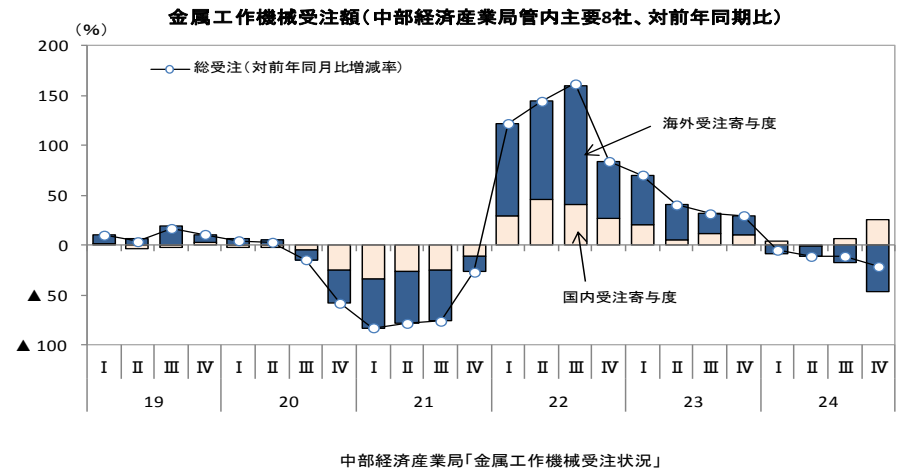
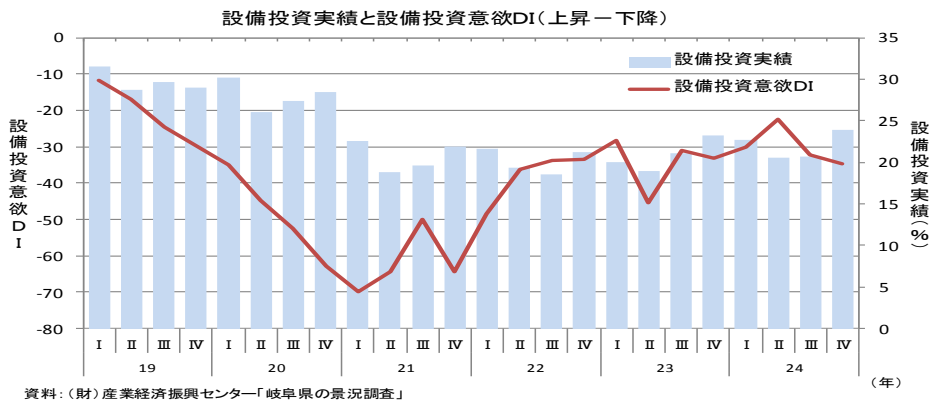
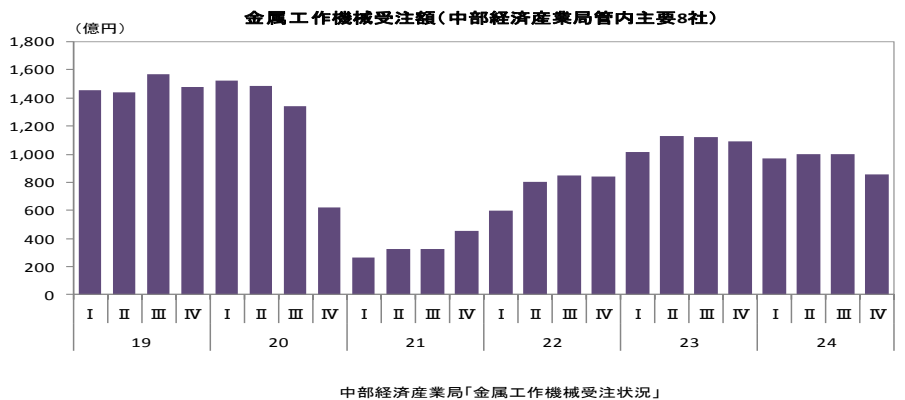
- ◆円安に伴い、原材料の値上げ要請が徐々に始まり、海外も含めグループ全体での最適調達ルートを再検討する必要性を感じている。(輸送用機械)
- ◆LNG費が少しずつ上がっている。(輸送用機械)
- ◆円安の好影響があるとしても夏以降だろう。原材料やガスの単価はまだ値上げの話は来っていない。(生産用機械)
- ◆円高修正により、海外からの部品調達に歯止めがかかってきた。(生産用機械)
- ◆円安が進み、為替差益に好影響が出始めている。また、ユーロ高が進んでおり、日本製機械のアジアにおける競争力の回復に好影響の兆しが出ている。(生産用機械)



設備投資

- 生産用機械の受注額は、海外受注が減少したことで、4期連続のマイナスとなった。
- 設備投資意欲DIは、改善傾向。

- 「補修・更新」といったやむを得ない理由が増加し、「合理化・省力化」など、前向きな設備投資が大きく減少した。



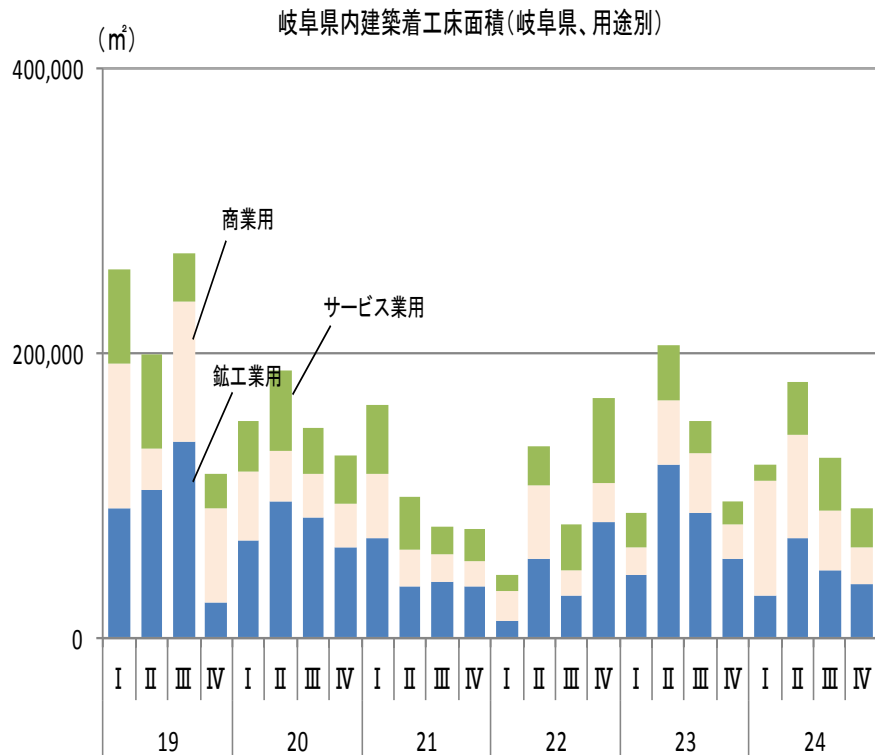
現場の動き

- ◆円高修正、海外景気の持ち直し(特に中国)により輸出の改善が春以降進む期待が持てる。
- ◆中国をはじめとした東南アジア全体からの受注について、引き合いの動きが見え始めてきた。この動きは確実となりつつある。
- ◆電子機器・自動車関連など、国内外とも印刷機械の取引が活発化してきた。(以上、生産用機械)
- ◆見積もりは増加傾向にあり、少しずつ受注に繋がりはじめた。(はん用機械)

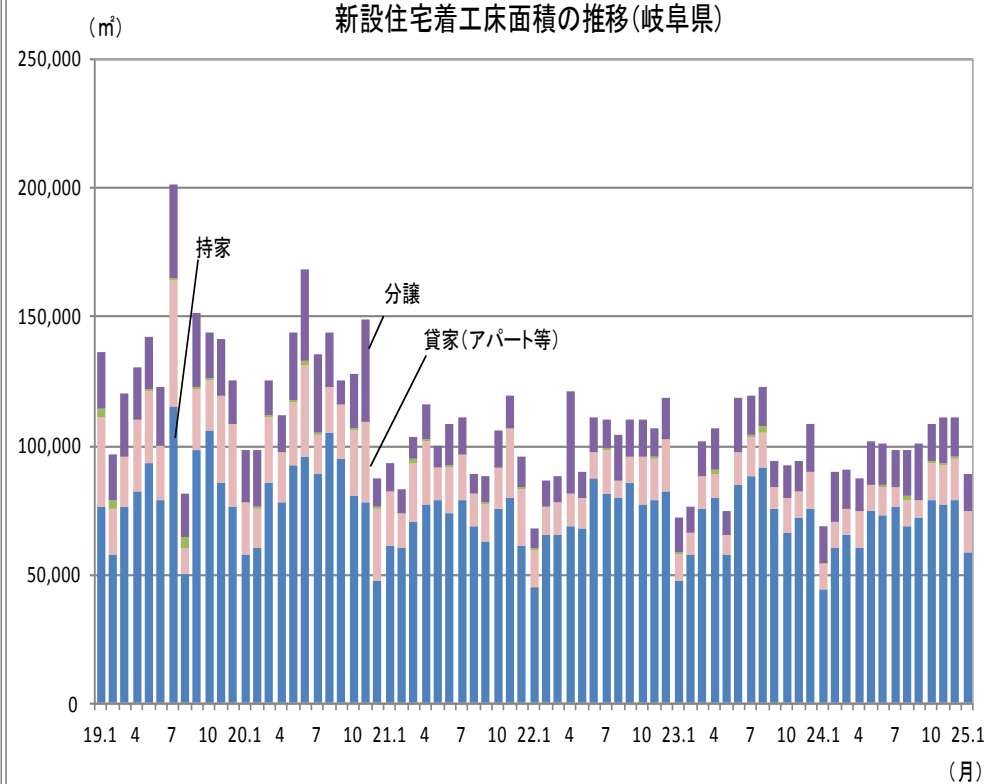
住宅・建築投資

○24年10－12月期の建築着工は、商業、サービス業用が増加したものの、鉱工業が減少し、前年同期比4.9%減となった。

○1月の住宅着工は、分譲が減少したものの、構成比の大きな持ち家が増加したことで、全体では前年同月比28.7%の増加となった。



資料: 県建築指導課「岐阜県建築着工統計」



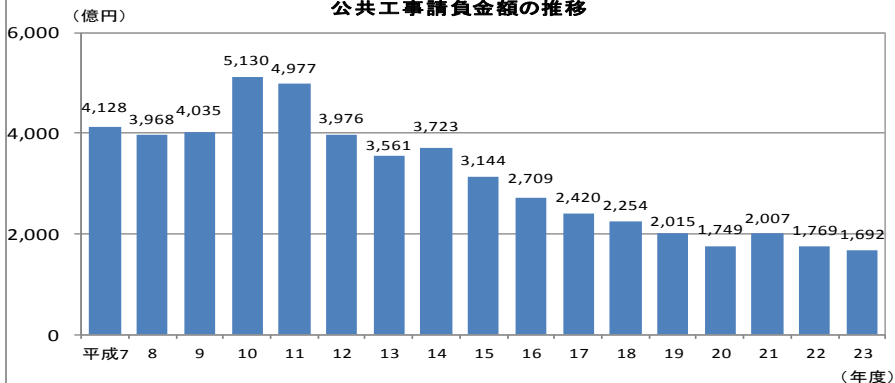
現場の動き

- ◆引き続き、住宅メーカー(ビルダー)は、消費税増税前の受注で忙しく、関連してプレカット(高山)も忙しい。(木材市場会社)
- ◆大手住宅メーカーを中心とした受注が多いが、価格の上昇がなく依然として厳しい状況にある。(製材所)
- ◆上期と比べ、下期は荷量が増えている。昨年と比べても若干良い状況。(建築関連運送業)

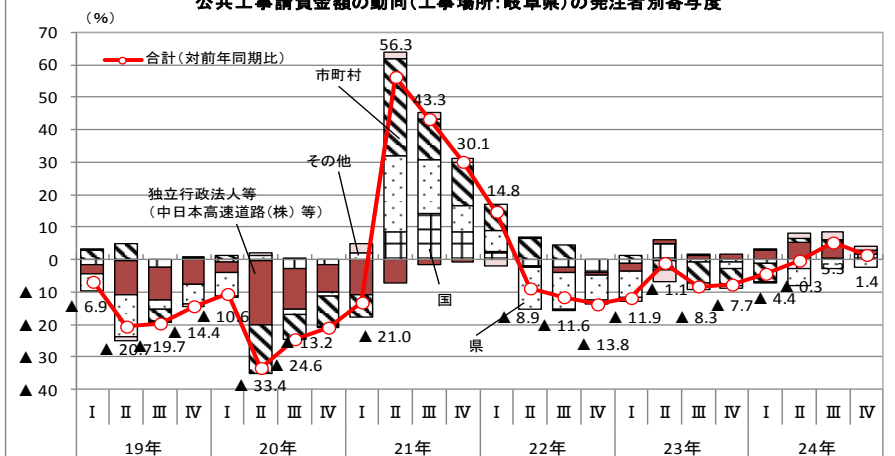
公共工事

○23年度内に県内で実施された公共工事請負金額は1,692億円で過去最低。
 ○24年10-12月期の公共工事請負金額は、国、市町村、独立行政法人からの発注が微増しているため、対前年同期比1.4%増と3期連続で前年同期の水準を上回る。

公共工事請負金額の推移

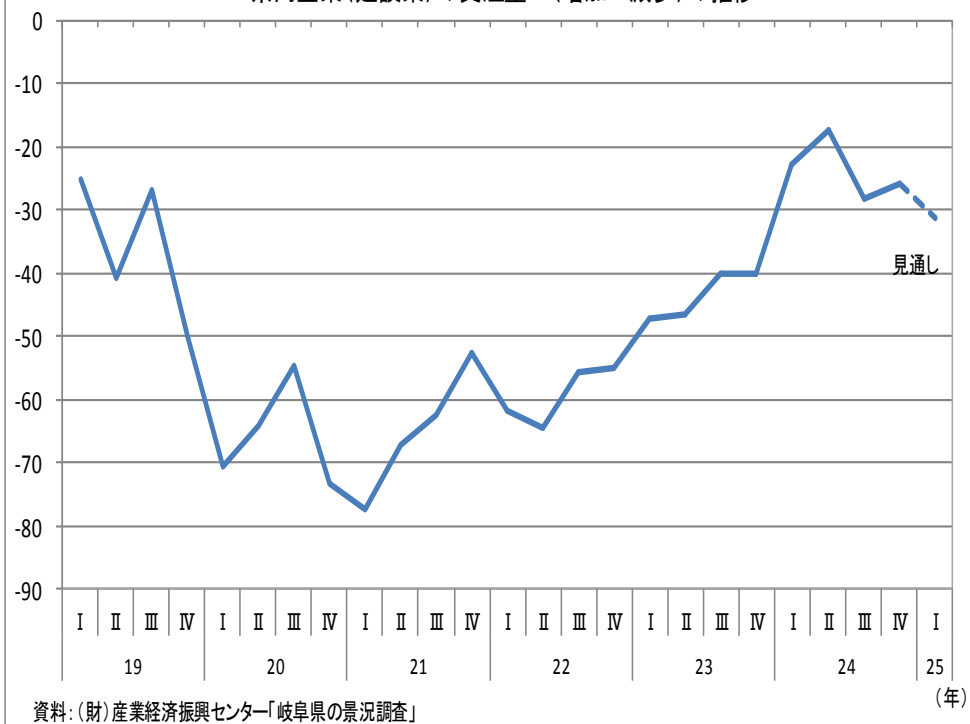


公共工事請負金額の動向(工事場所:岐阜県)の発注者別寄与度



注:請負金額の累計額(年度累計)の対前年同期比
 資料:東日本建設業保証(株)岐阜支店「前払金保証取扱状況」

県内企業(建設業)の受注量DI(増加-減少)の推移



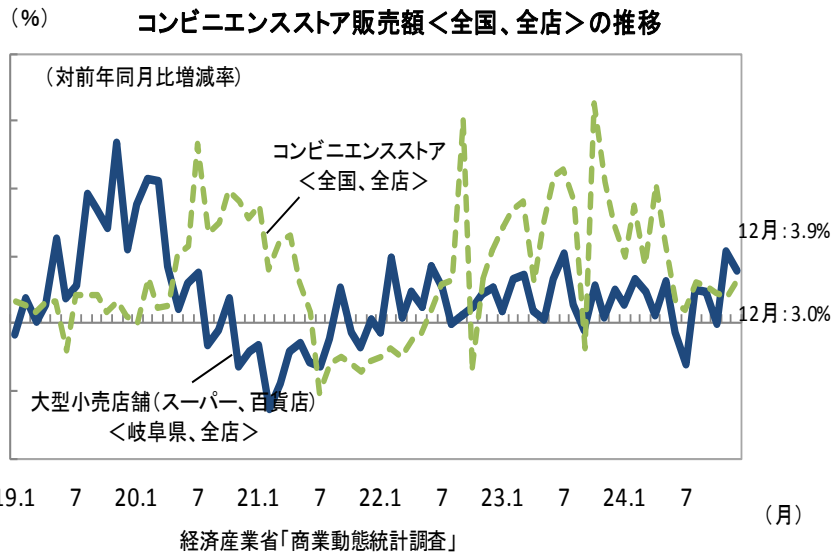
現場の動き

◆昨年度に比べて受注量が増加しているわけではないが、2月は積雪の影響も少なく順調に工事も進捗しており、多くの建設業者に手持ちの仕事はある状況。一方、除雪業務が例年に比べて少なくなっている。(業界団体)

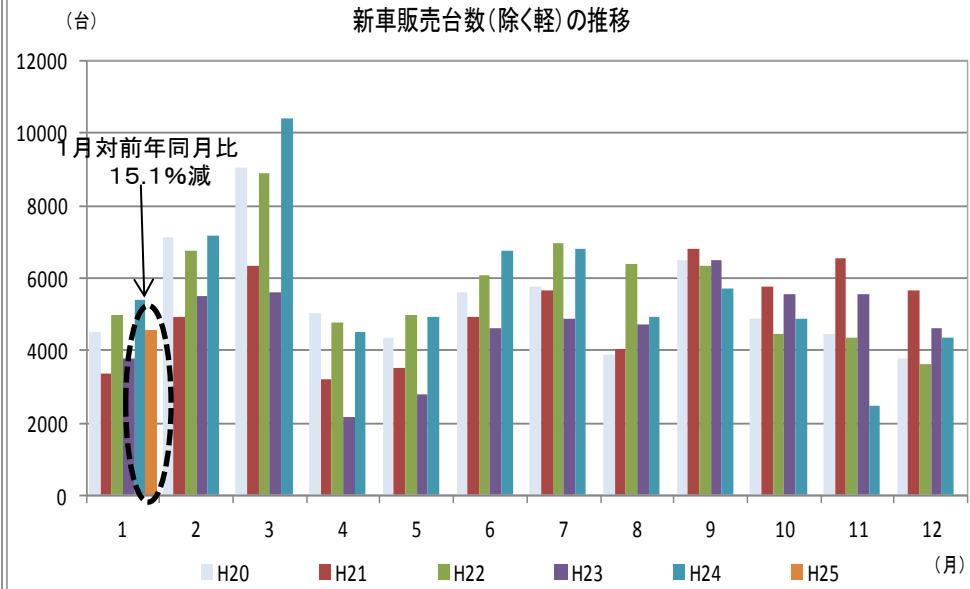
個人消費(流通・小売)

○12月の大型小売店販売額は、対前年同月比3.9%増と5カ月連続の増加となった。また、1月の自動車販売は前年同期比15.1%減と5カ月連続の減少となった。

大型小売店舗販売額<岐阜県、全店>及び
コンビニエンスストア販売額<全国、全店>の推移



新車販売台数(除く軽)の推移



現場の動き

【大型店総括】食料品は順調に推移しているものの、衣料品は動きが鈍く、概ね前年並み。

【専門店総括】寒さが影響して、スポーツ用品については伸び悩んでいるが、家電は久しぶりに前年並みを確保した。

◆来客数は全体で前年同月比101%。昨年よりやや良い程度。

◆食料品は変わらず好調だが、飲食店の売上が良くなかった。弁当の売上は良く、最近の「中食」の影響があるのではないかと。

◆バレンタインの売上が良く、バレンタインコーナーは対前年比120%だった。

◆衣料品の売上があまり良くない。気温が低いことで春物の動きが昨年よりも鈍い。

◆来客数、売上ともに前年同月比100%。新生活関連品については、今年は出足が悪い。(以上、大型小売店)

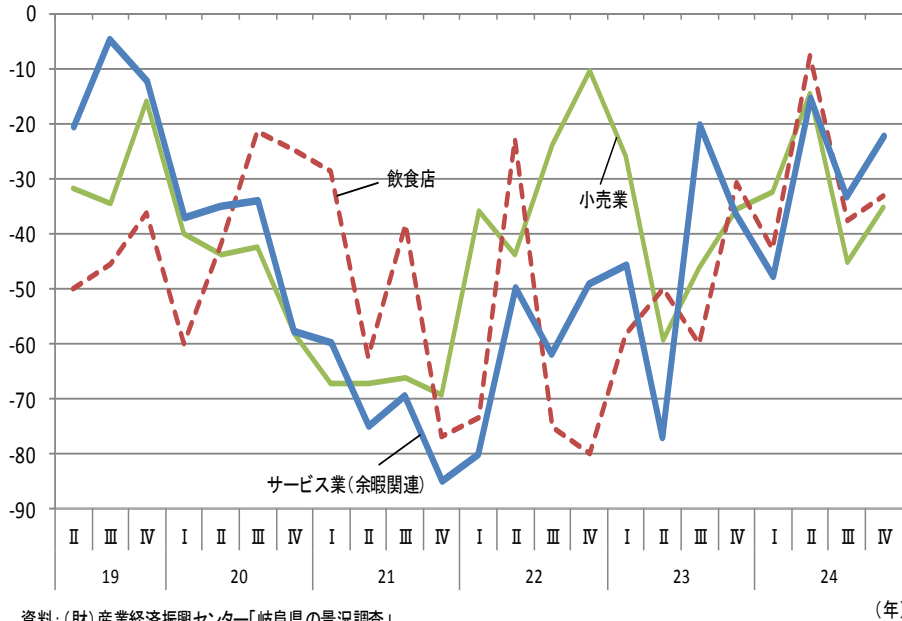
◆売上は対前年比でやや減少。寒さが続いたことで冬物衣料のクリアランスは悪くなかったが、春物衣料の出足が遅く、全体に影響した。(スポーツ用品)

◆TVが久しぶりに前年を上回り、全体でも概ね前年並みを確保。バレンタイン関係でハンドミキサーが品切れとなった。(家電)

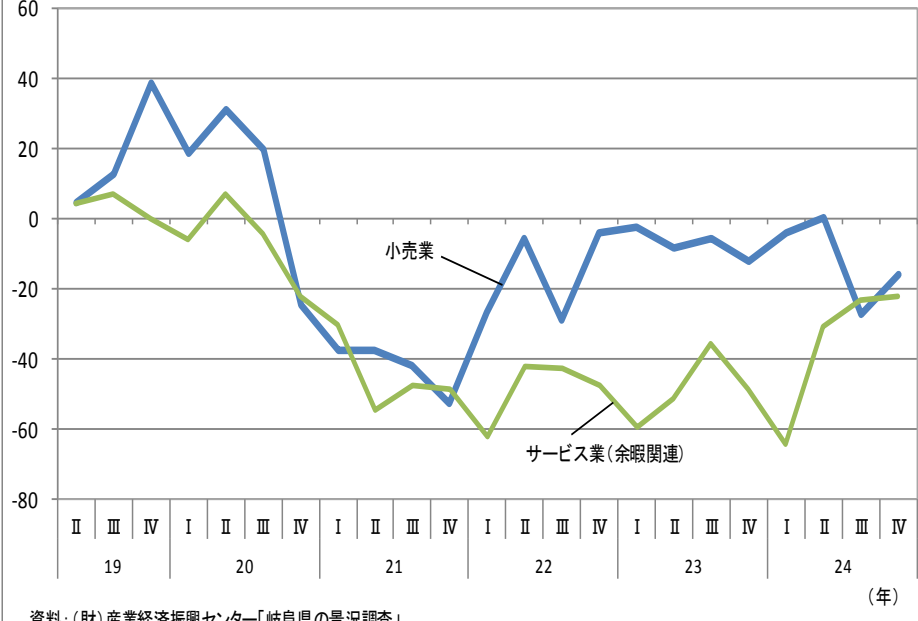
個人消費(流通・小売)－2

○平成24年第Ⅳ四半期の小売業について、売上高、販売額ともに上昇に転じた。

県内企業の売上高DI(増加－減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇－下降)の推移



現場の動き

【商店街総括】 寒さのために客足が伸びず、売上も全体的に低調であった。

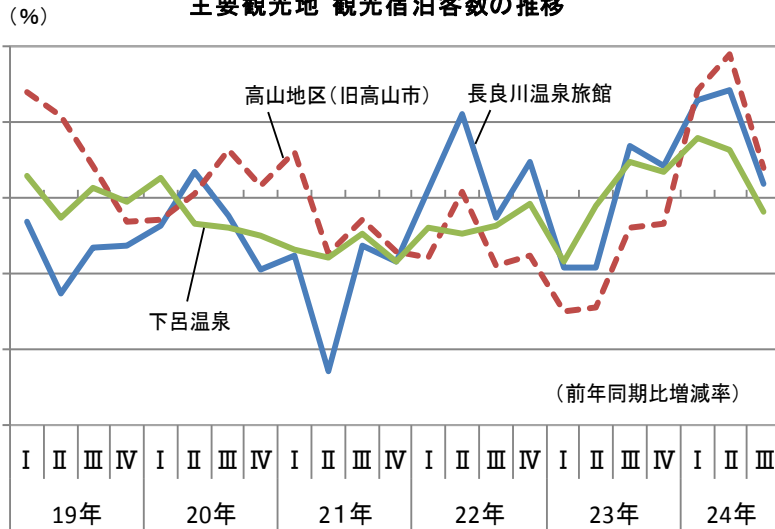
- ◆2月は全体的に寒く、来店客が少なかった。春物は寒いこともあって、売れ行きが悪い。(大垣市ブティック)
- ◆高齢の客が多いので、寒さのために商店街に出てこない模様。(柳ヶ瀬商店街身の回り品)
- ◆柳ぶら楽市のイベントは寒さのため客足が悪く低調だった。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆寒さのため、子連れの客足が伸びなかった。(多治見市商店街子供服)
- ◆商店街が実施したイベントが盛況であった。寒かったが、雪自体はそれほど積もらなかったため、例年より観光客も多かったと思う。(高山市商店街和菓子店)
- ◆客単価は前年並みだが、客数が減っている。外食を控えている感じ。(アクティブG)

観光

○平成24年第三四半期の宿泊客数は、長良川温泉が前年同期比2.0%増、高山地区(旧高山市)が4.1%増と引き続き増加したものの、下呂温泉は1.7%の減少に転じた。

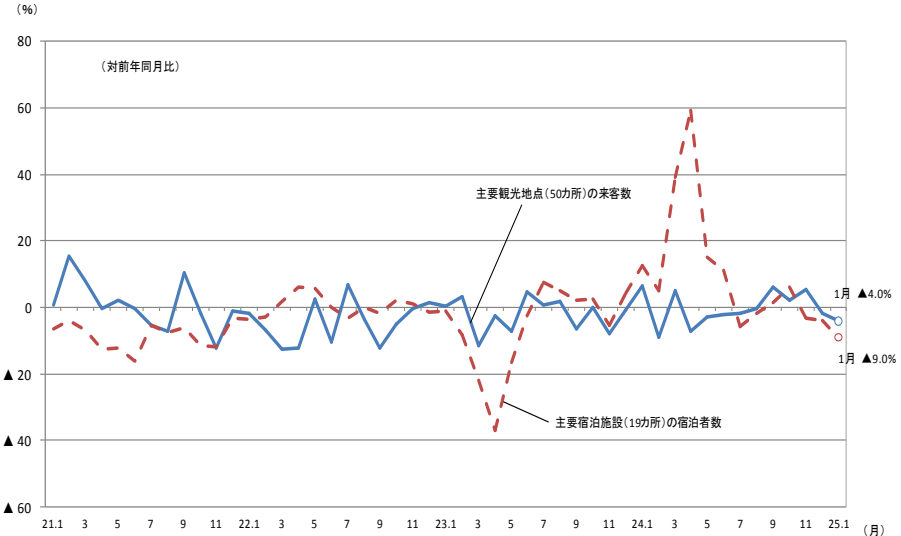
○主要観光地における1月の観光客数は、前年同月比4.0%増と2ヶ月連続で前年を下回った。主要宿泊施設における宿泊者数は、同9.0%減と3ヶ月連続で前年を下回った。

主要観光地 観光宿泊客数の推移



県統計課「統計で見る最近の県経済」

主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



※県観光課調べ

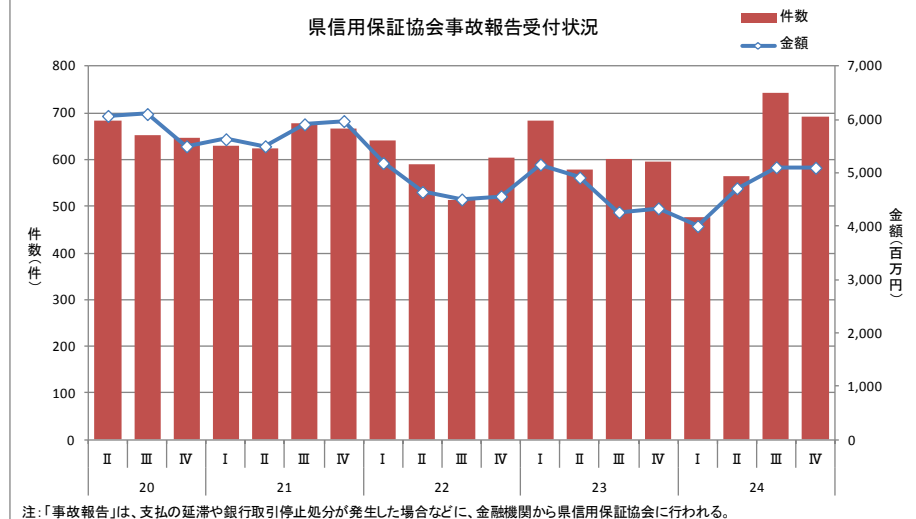
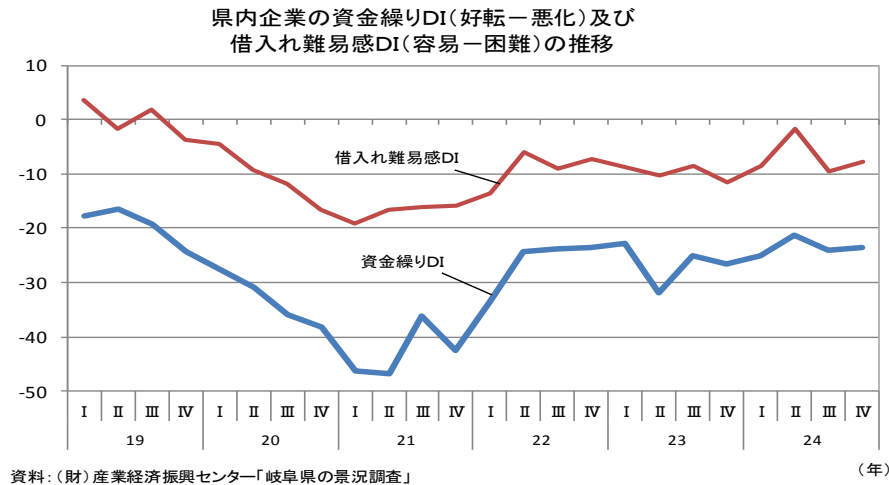
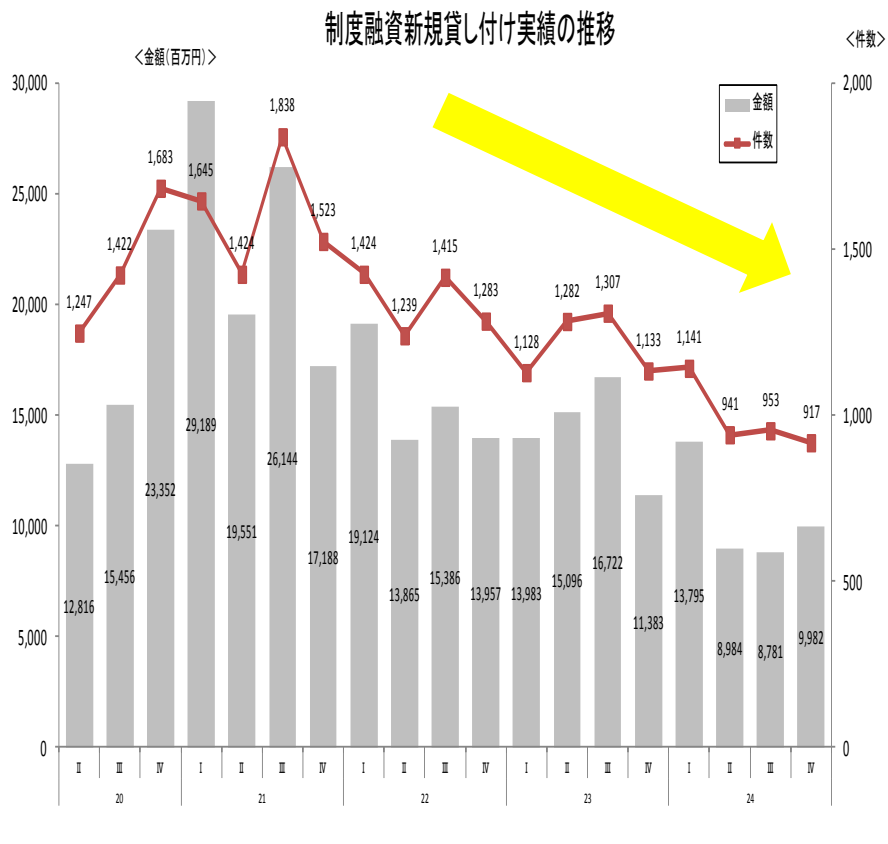
現場の動き

- ◆施設によってバラツキはあるものの、閑散期にあることや天候不順の影響等から、前年の水準を僅かに下回っている模様。インバウンドはアジアを中心に緩やかな回復の動きが続いている。(宿泊施設の総括)
- ◆2月は前年並みの水準を確保。3月の予約は前年をやや上回る水準。(多治見市内の宿泊施設)
- ◆航空会社のダイナミックパッケージ商品の設定により、遠方からの受注が入るようになった。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆例年にない寒さと雪のため、動きが悪い。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドはほぼ戻りつつある。(高山市内の宿泊施設)
- ◆中国からの送客が少しずつ増えてきたことに加え、海外から4月の問い合わせが多く寄せられている。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆タイを含め東南アジアからの予約が少しずつ入っている。(恵那市内の宿泊施設)
- ◆「旧正月」に絡んだ動きが見られた。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 新規融資実績は21年の秋口から沈静化が続いている。
- 足元の資金繰り及び借入難易度は回復基調が一服している。

<新規融資実績(月別)>

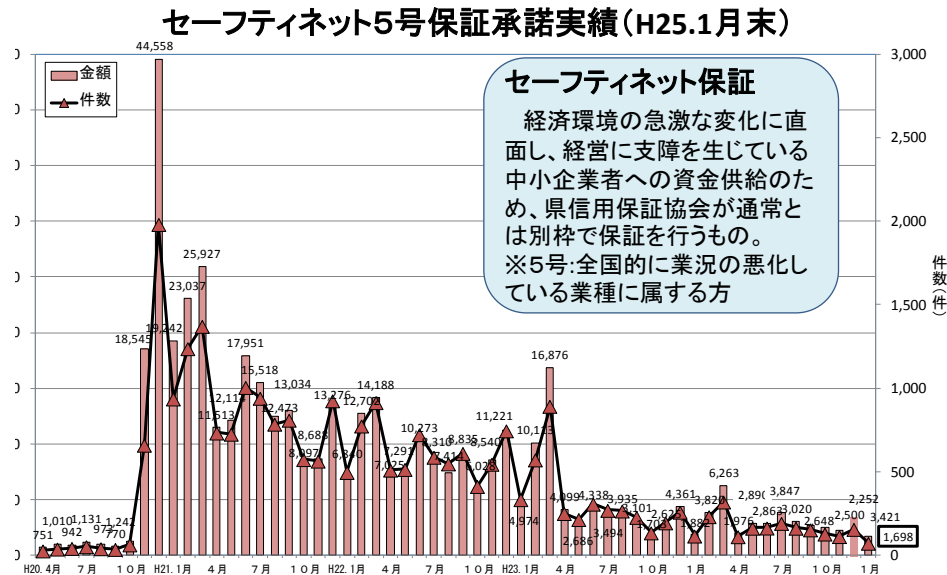
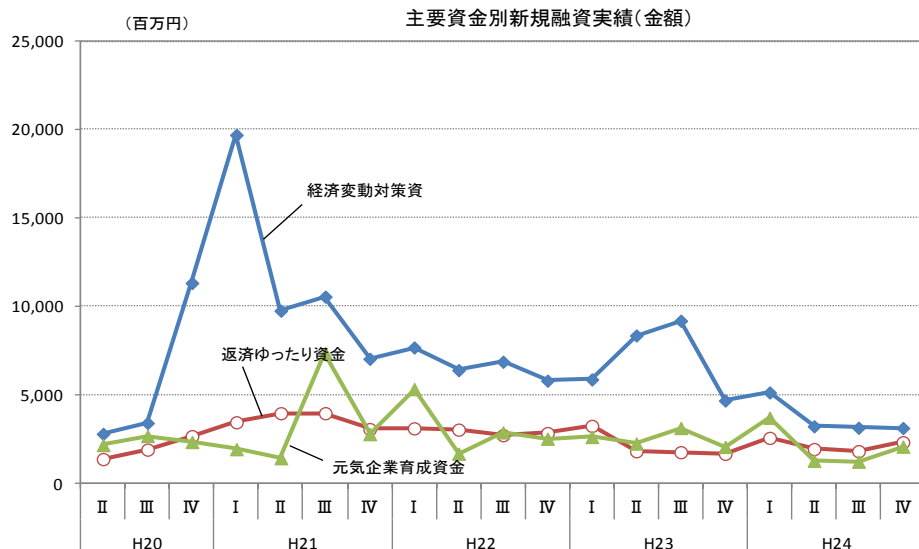


現場の動き

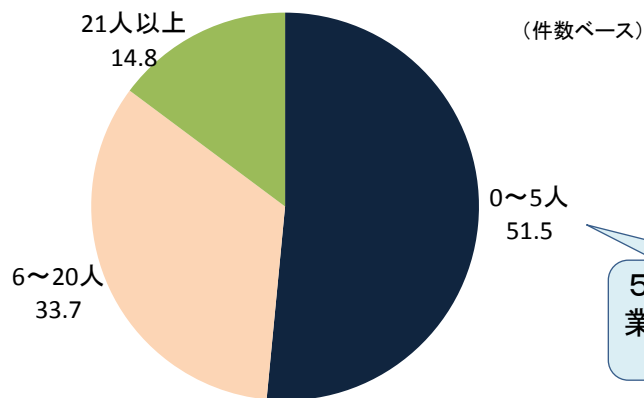
- ◆これまでどおり、資金需要はなく、状況はまったく変わっていない。
- ◆条件変更先に対しては、訪問、文書により金融円滑化法終了後の対応について変化ないことを説明(金融庁指示)、ほぼ事業者には理解されていると考えている。 ◆円滑化法期限を前にした駆け込みもない。(以上、金融機関)

資金繰り-2

- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。
- 引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が半数以上を占める。

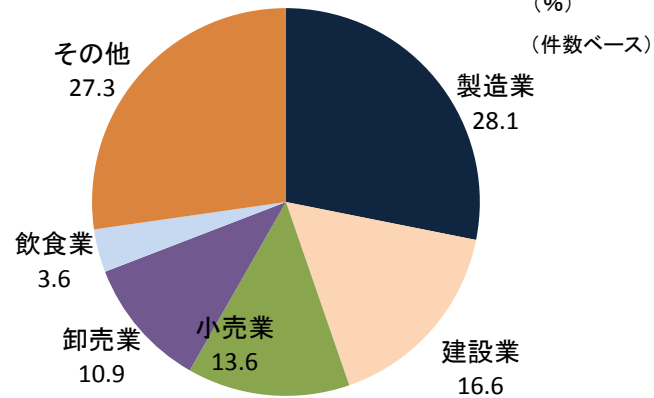


県制度融資 利用企業規模別割合 (H23年4—H24年3月計)



5名以下の零細企業の利用が半分以上を占める

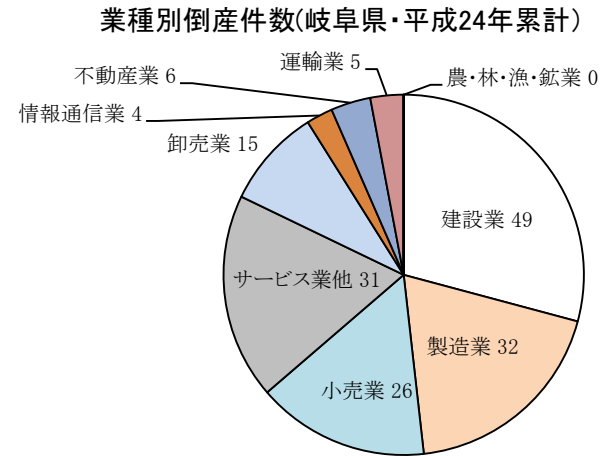
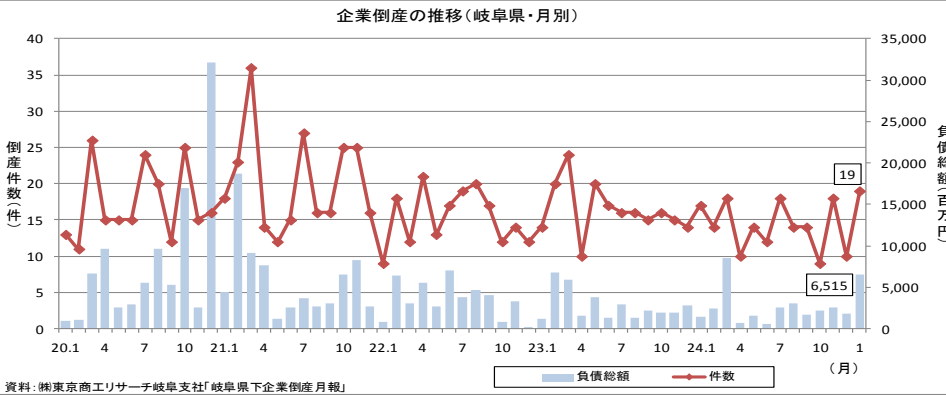
特別経済対策資金 利用企業規模別割合 (H23年4—H24年3月計)



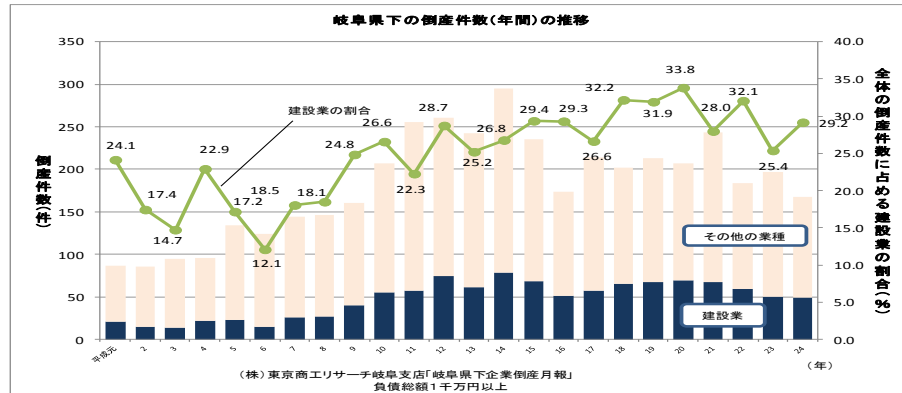
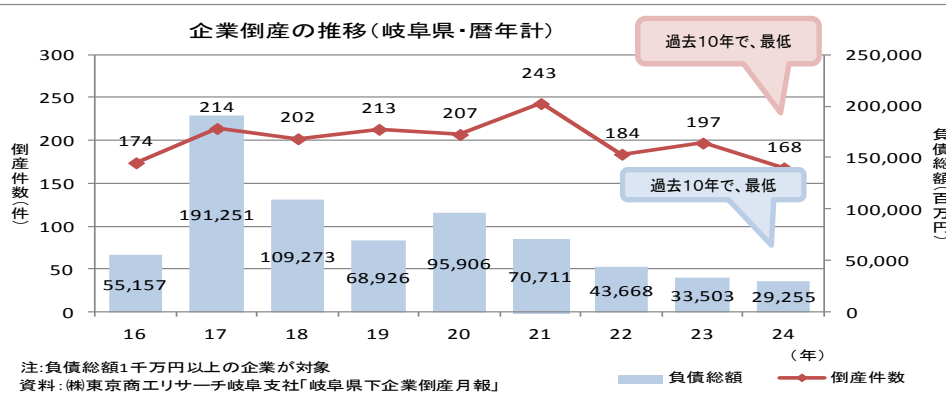
倒産

- 平成25年1月の倒産件数は前年同月から2件増加の19件となった。
- 平成24年の倒産件数は168件となり、前年から29件減少。負債総額は平成10年以降最も低い水準。

- 業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。



東京商工リサーチ「岐阜県下企業倒産月報」
負債総額1千万円以上



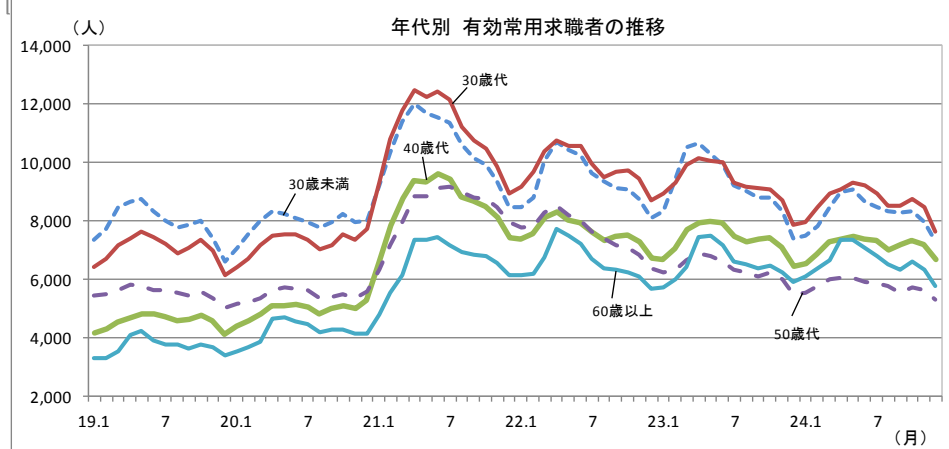
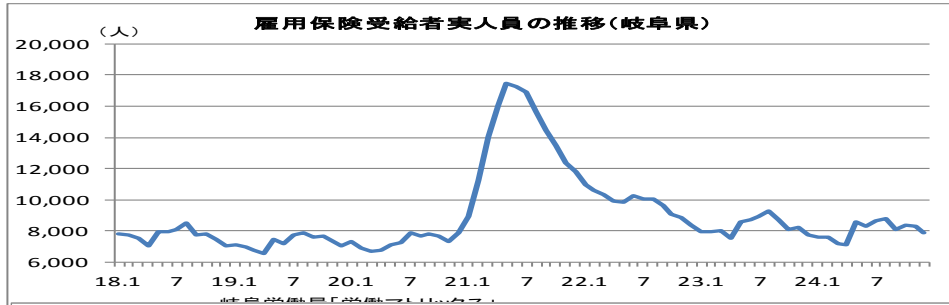
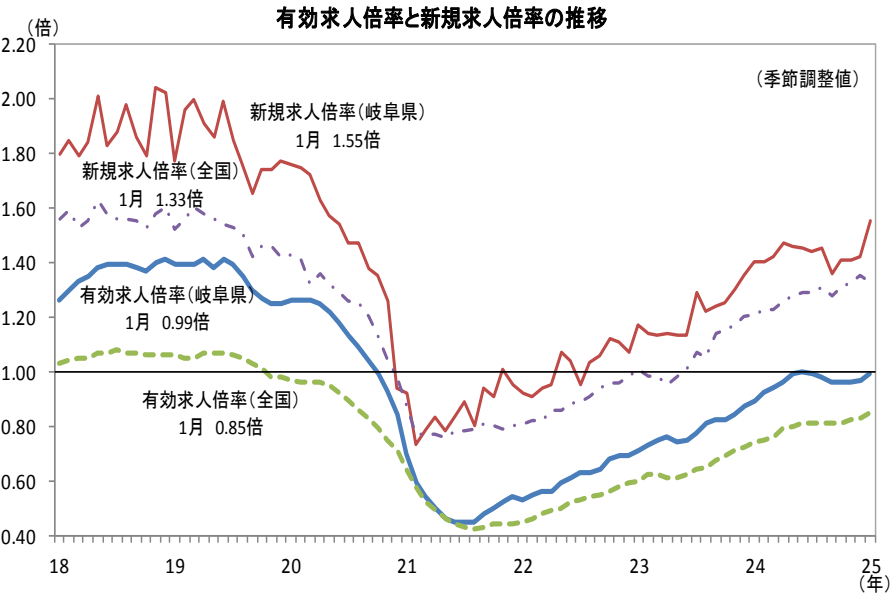
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆1月の県内倒産件数は19件と、前年同月から2件増加、前月から9件増加となっており、1月単月の倒産件数としては、過去20年間で、平成17年に次いで3番目に多かった。
- ◆中小企業を中心に金融円滑化法の適用による借入金の返済猶予を受けているが、需要及び消費低迷を背景に業績改善の進まない企業への支援効果は薄れてきている。

雇 用

○1月の有効求人倍率は0.99倍と2カ月連続で上昇。また、新規求人倍率も1.55倍と前月から0.13ポイント上昇。

○12月の雇用保険受給者人員は7,862人と前年同月と比べて2.18%増加した。



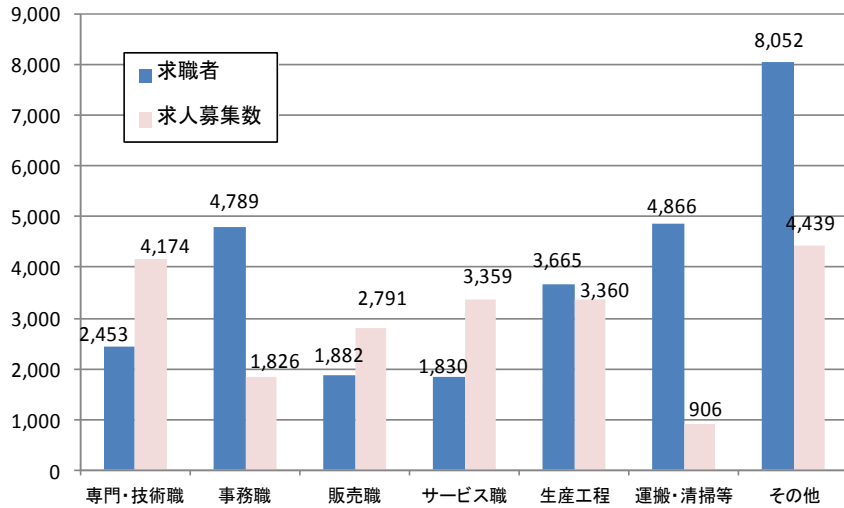
現場の動き

- ◆受注量の増加を残業等に対応している状況であり、正社員については、専門職や即戦力に限って求める企業がほとんどである。(総括)
- ◆12月以降は出荷量が増えており、残業等により対応している。
- ◆長期的には、国内生産の減少に加え、東北と九州を合わせた3拠点化のために、岐阜エリアの生産数が減る傾向にある。この傾向を踏まえて、あるべき人員及び人員構成を精査し、今後の対応を検討する。(以上、自動車部品)
- ◆即戦力の営業職を募集中。(電気機械)
- ◆受注・売上が伸長していることから、需要期を控え生産現場のオペレーターを中途採用予定。
- ◆1月以降は出荷量が増加したことにより業務量が増えており、残業等により対応している。(以上、プラスチック)
- ◆優秀な人材を確保し、国内はもとより、海外販路の拡大に努めていきたい。(陶磁器)

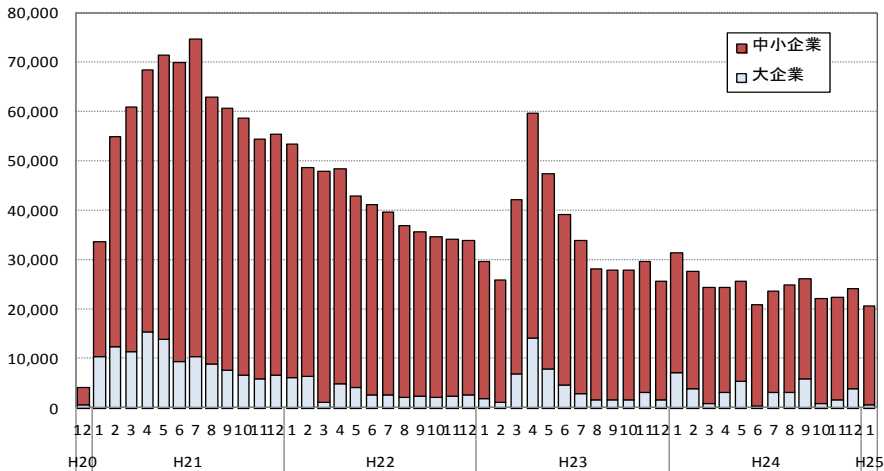
雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では求職者数と求人募集数のギャップが大きい。
- 新規求人は、生産用機械や電気機械産業で減少傾向にある。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したものの、このところほぼ横ばい状態。

(人) 職業別求職者数・求人募集数(平成25年1月)

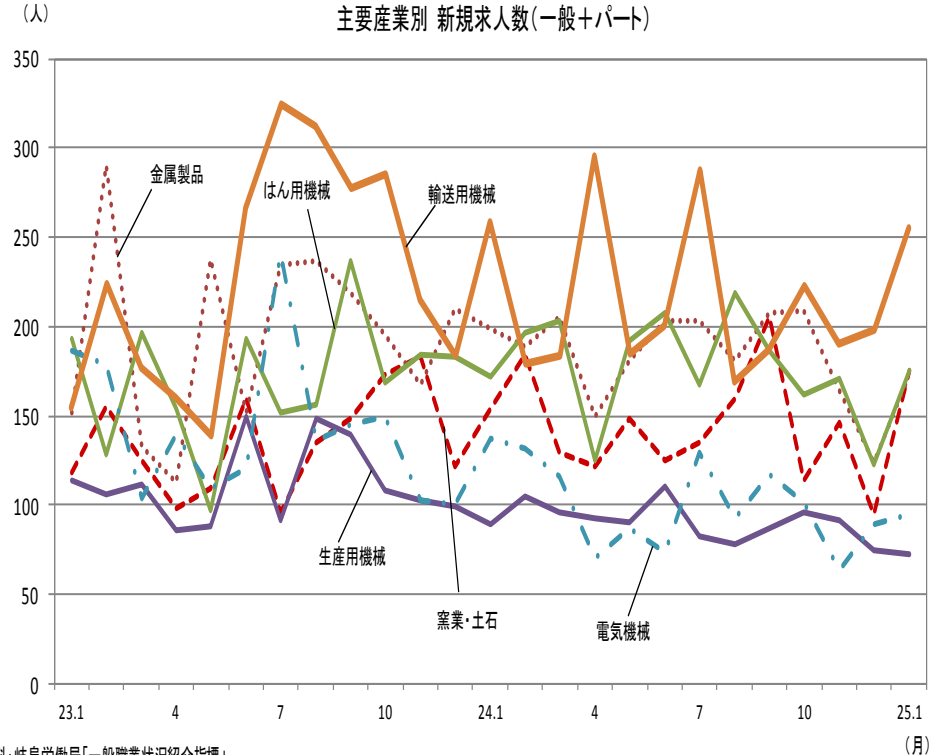


雇用調整助成金の申請状況



資料: 厚生労働省「雇用調整助成金等に関する「休業等実施計画届」受理状況」

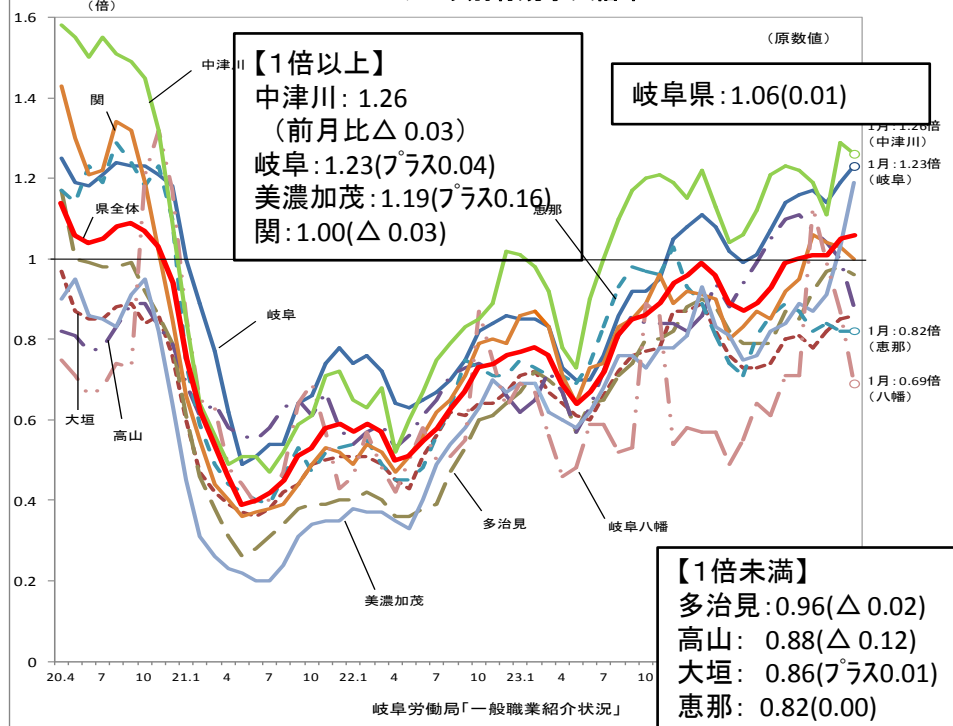
主要産業別 新規求人数(一般+パート)



資料: 岐阜労働局「一般職業状況紹介指標」

雇 用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



<ハローワーク岐阜>

- ◆ 求人数、求職者数ともに増加。
- ◆ 来所者数も増加している。
- ◆ 雇用調整助成金は減少、雇用保険受給者は微増。

<ハローワーク大垣>

- ◆ 求人数、求職者数ともに増加。
- ◆ 雇用調整助成金の利用は増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は引き続き増加。

<ハローワーク関>

- ◆ 求人数は増加、求職者数はほぼ横ばい。
- ◆ 雇用調整助成金は横ばいが続く。
- ◆ 雇用保険受給者数は減少した。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆ 求人数、求職者数ともに増加。
- ◆ 雇用調整助成金の利用件数は微減。
- ◆ 雇用保険受給者は微増傾向。

<ハローワーク多治見>

- ◆ 求人数、求職者数ともに増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は微増となった。
- ◆ 雇用調整助成金は増加している。

<ハローワーク恵那>

- ◆ 求人者数は増加傾向。求職者数は先月比で増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は微増、雇用調整助成金は横ばい。

<ハローワーク中津川>

- ◆ 求人数、求職者数ともに増加。
- ◆ 雇用調整助成金と雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク高山>

- ◆ 求人数、求職者数は微増。
- ◆ 雇用調整助成金は微減、雇用保険受給者数は横ばい。

【ソニーEMCS美濃加茂サイト関連】

○従業者数

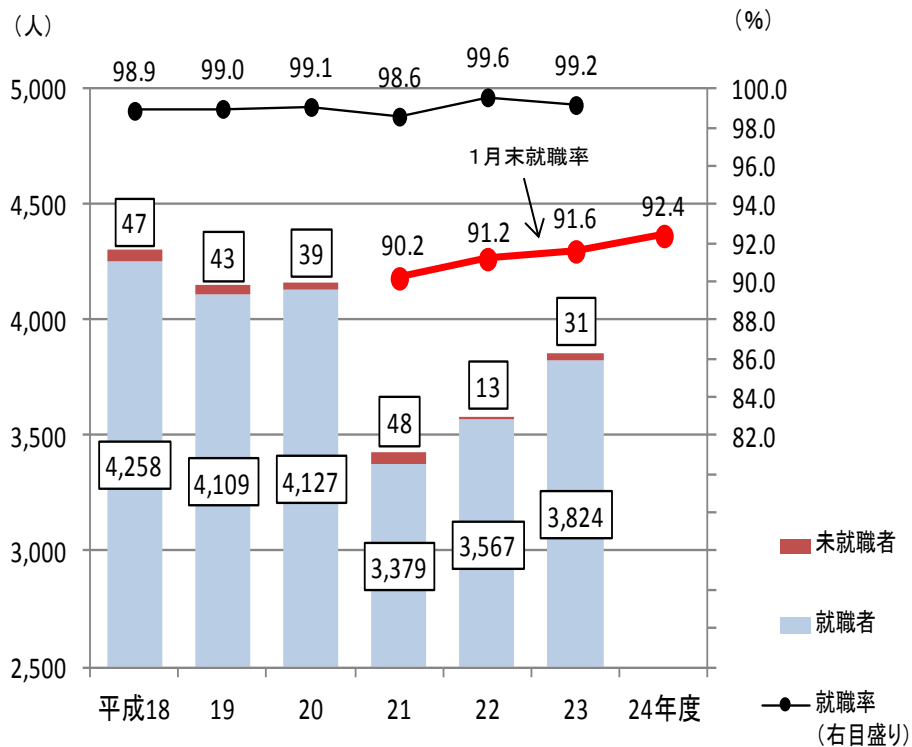
11月20日: 1,457人(外国人689人)
 1月20日: 1,291人(外国人578人)
 2月末見込み: 621人

- ◆ 影響を受けていると思われる不動産業等からの条件変更等の案件はない。
- ◆ 地元の下請け企業がなく、影響はないようである。部品運搬業で少し影響があったが、僅かだった。
- ◆ 相談窓口を設けたが、ほとんど相談がない。(東濃地域の金融機関)
- ◆ 特記事項なし。(ハローワーク)

雇 用(高校新卒者の就職)

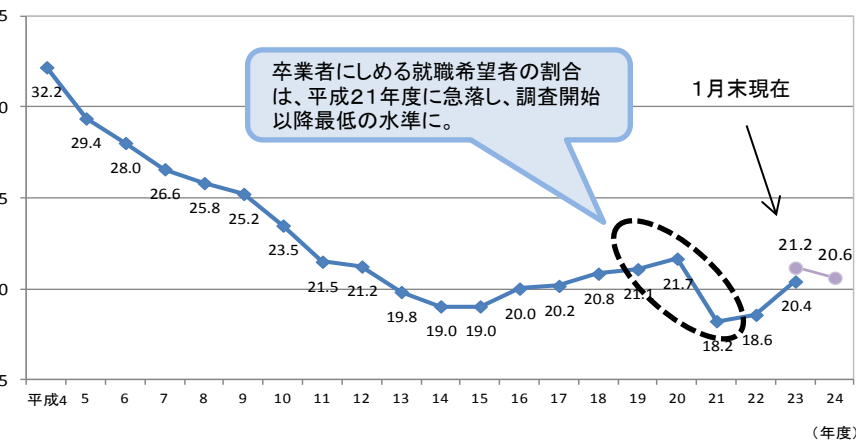
○高校卒業者の就職率はほぼ横ばい。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加している。

新規学校卒業者の就職状況(高校卒業者)



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

卒業者にしめる就職希望者の割合(高校)



現場の動き(内定の状況)

- <ハローワーク大垣、多治見、郡上、中津川>
 - ◆2013年卒業者の内定状況は、昨年と比べて、上昇している。
- <ハローワーク岐阜、恵那、関>
 - ◆2013年卒業者の内定状況は、昨年と比べて下降している。
- <ハローワーク高山、美濃加茂>
 - ◆2013年卒業者の内定状況は、昨年と同程度。

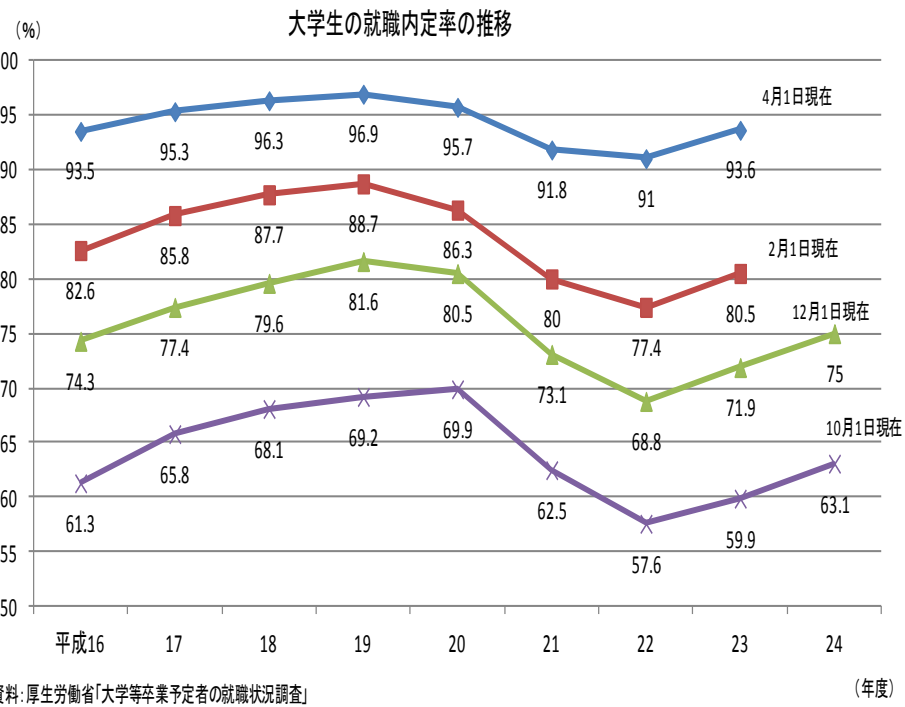
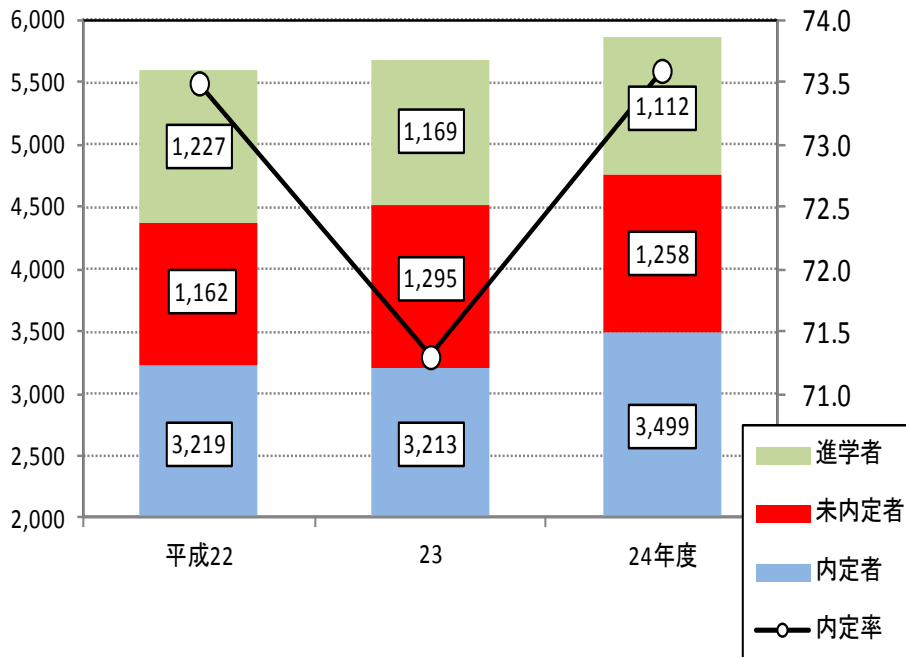
現場の動き(求人状況)

- <ハローワーク揖斐、高山、恵那、郡上八幡、中津川>
 - ◆2013年卒業者に対する求人は、昨年と比べて増加している。
- <ハローワーク岐阜、多治見>
 - ◆2013年卒業者に対する求人は、昨年と比べて減少している。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

- 大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの動きが見られ、全国・岐阜ともに過去3年間で最も高くなった。
- 25年3月の卒業予定者については、昨年度より改善傾向にある。

(人) 大学・短大卒業者の進路先(1月末現在) (%)



【岐阜県内の主な大学】

- ・内定率は昨年度並みで推移している。
- ・1月末の内定率は89%と昨年度を上回る状況であるが、未内定学生の動きが鈍くなっている。
- ・1月末の内定率は77%と昨年度を上回る状況であるが、まだ50名ほど未内定者がいるため、個別支援を強化したい。

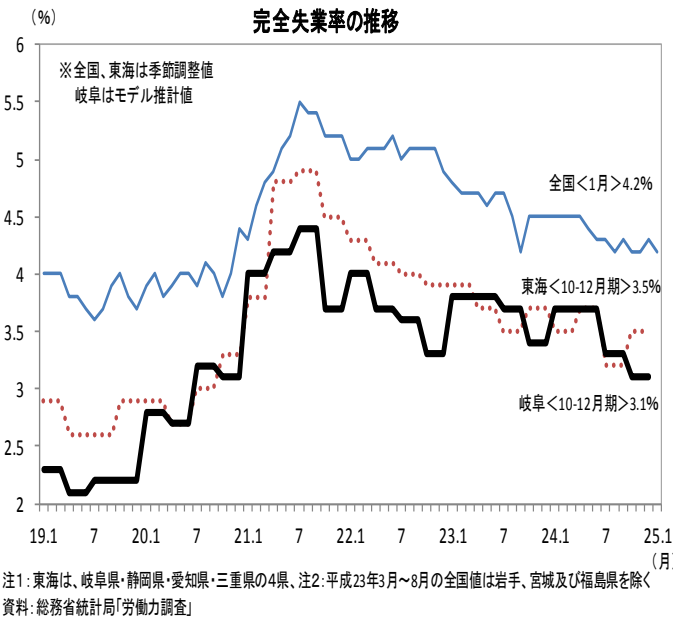
【愛知県内の主な大学】

- ・1月末の内定率は82%と昨年度並みの水準。
- ・内定率は70%で、昨年と比べると5%程度上昇している。
- ・内定率は74.6%と昨年と比べて改善傾向にあるが、採用情報が少なくなっている。

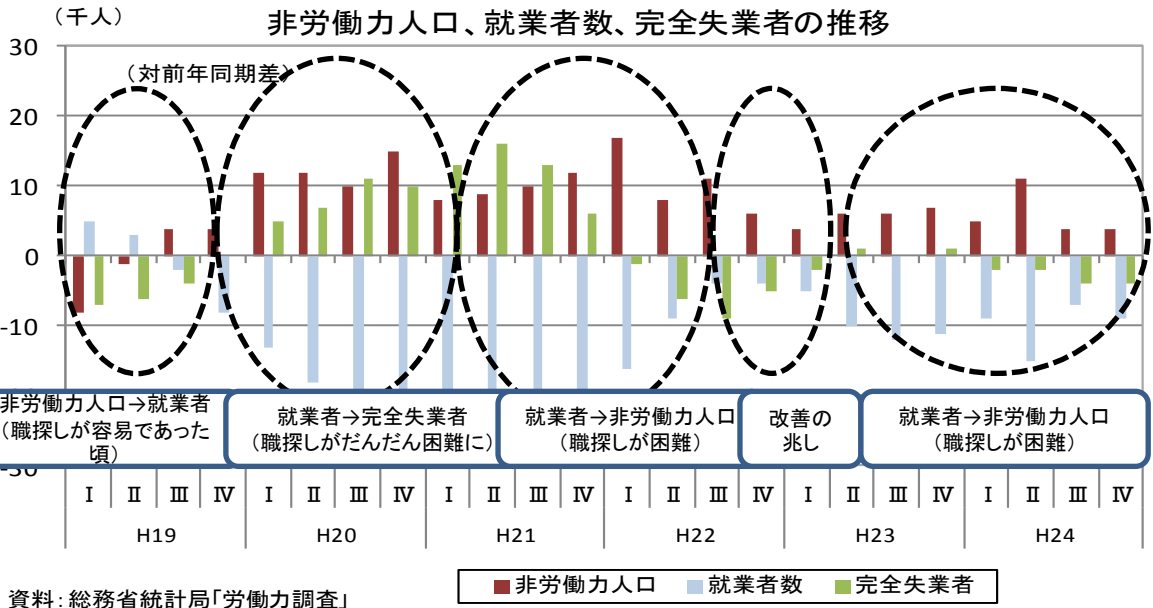
雇用(完全失業率)

- 平成24年第Ⅳ四半期の完全失業率は3.1%と0.2ポイントの低下。
- 平成21年以降職探しが非常に困難な状況が続いたが徐々に緩やかになり、平成22年第Ⅲ四半期以降は改善の兆しも見られた。しかし、直近は再び減少局面に。

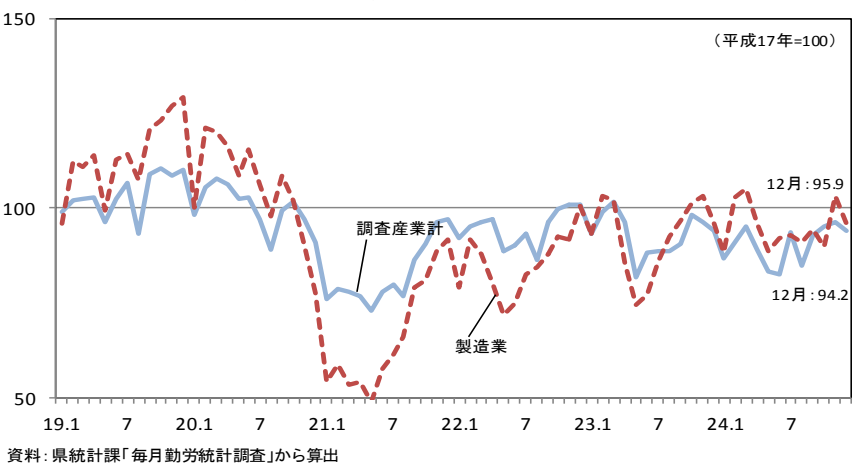
完全失業率の推移



非労働力人口、就業者数、完全失業者の推移



所定外労働時間指数(5人以上の事業所)の推移



岐阜県の現金給与総額の推移(産業計、5人以上の事業所)



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業全体では、円安により収益面で改善傾向にあるものの、幅広い業種で原材料の値上げ要請が徐々に始めている。先行きについては、比較的明るい声が多い。はん用機械や生産用機械においては、円安の進行や海外景気の持ち直しの動きが出始め、引き合いの動きが見えてきた。
- 直近の円安の動きについては、輸出の増加や収益の改善が見受けられる一方で、原材料費が徐々に値上がりし始め、価格転嫁に苦慮する企業の姿が伺える。
- 地場産業は、木工や刃物で明るい声も聞こえたが、依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況にある。
- 小売については、食料品が順調に推移しているものの、寒さが影響して衣料品の動きが鈍く、概ね前年並みの水準。商店街については、寒さが客足に影響して厳しい状況。
- 観光は、施設によってバラツキはあるものの、天候不順の影響等から前年の水準を僅かに下回っている模様。インバウンドはアジアを中心に緩やかな回復が続いている。
- 雇用面では、受注量の増加を残業等で対応している状況であり、正社員については、専門職や即戦力に求めて求める企業がほとんどである。雇用調整助成金については、徐々に収束に向かっている。
- 企業の資金繰りは、改善傾向が一服し、ほぼ横ばい状態にあるが、新規借入れ需要は依然少ない。